

事務事業名	子ども未来プロジェクト推進事業	事業期間	2008 ~	年度	係内番号	09
担当部署	子ども部	子ども課	子ども係	連絡先	613	

計	政策番号	02	基本計画	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
			基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実									
			基本計画②	01	子ども・家庭応援計画	1201	夢をもち、かなえることができる、自己実現の応援									
			実行計画	01	子ども・家庭応援計画	1201	夢をもち、かなえることができる、自己実現の応援									
画	予算事業名	子ども未来プロジェクト推進事業費					会計コード	01	款	10	項	05	目	03	事業	11
	事務事業の概要	茅野市の子ども達が、茅野市の未来を「もっと住みやすく、住んでみたい」まちにするため、自分達が日頃思ったり感じていること、まちづくりの意見、アイデアなどを自由に話し合い、それを実現させていくような継続性のある中高生の組織として「未来プロジェクト」が発足した。この「未来プロジェクト」を事務局としてサポートしていく。														
	現状と背景	中高生が集まりまちづくりについて意見交換、提言をする場として平成20年度から「子ども会議」を開催してきた。その後回数を重ねていくにつれて、提言するだけではなくてもその場限りになってしまい、その後の発展に繋がらないのではないかという思いが強まった。そのため、意見や提言を挙げるだけでなく考えたことを実践する組織として「未来プロジェクト」が必要とされた。														
	目的	受益者	市民													
L	対象	対象	市内在住・在学の中高生世代													
	的意	図	今まで気がつかなかった社会に対する視野を広げ、自由な発想と自立心を伸ばす。自分の意見を表明することができるようになる。大人も子どもたちの意見を尊重し、パートナーとして茅野市のまちづくりに共に取り組んでいくようになる。													
	手段・方法	（どうやって）	メンバーを公募し、メンバーが日頃思ったり感じていること、まちづくりの意見・アイデアなどを自由に話し合う中で、次の3点を基本理念として活動を行う。①自分達でできることは自分達で即実行していく。②大人の力を借りなければいけないことは、大人がサポートして実行する。③どうしても行政の力を借りないといけないことは、市へ提言する。また、現在まで実施されている「子ども会議」の企画・運営を行う。プロジェクトについて広く周知する。													
	A	評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など						最終目標値				
1			定例会の開催	開催回数	回	開催回数実績						10				
2			プロジェクトメンバーの構成	メンバー数	名	メンバー実績						30				
3			大人サポーターの養成	メンバー数	名	メンバー実績						15				
N	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など						最終目標値					
		1	自己肯定感と自己有用感をもち自己実現ができる子どもの育成	子ども会議への参加者数の増	名	参加者数実績（どんぐりプラン目標指標に掲載）						500				
		2	帰ってきたい魅力あるまちづくりの推進	将来は茅野市で暮らしたいと思う15歳～18歳の割合	%	暮らしたい市内子どもの人数/子ども会議でのアンケート回答者数（KPI・どんぐりプラン目						80				
		変更履歴														

実	施	状	項	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
			事業費等(a)	円	358,700	267,226	474,000			
			財源内訳	円						
			国庫支出金	円						
			県支出金	円						
	況	O	活動指標	開催回数	目標	回	10	10	10	
					実績	回	20	21		
					達成率	%	200.00	210.00	-	-
			メンバー数	目標	名	30	30	30		
				実績	名	39	28	46		
				達成率	%	130.00	93.33	153.33	-	
			メンバー数	目標	名	15	15	15		
				実績	名	12	17	13		
				達成率	%	80.00	113.33	86.67	-	
成果指標	子ども会議への参加者数の増	目標	名	250	250	250				
		実績	名	150	119					
		達成率	%	60.00	47.60	-	-			
将来は茅野市で暮らしたいと思う15歳～18歳の割合	目標	%	80	80	80					
	実績	%	50	70						
	達成率	%	62.50	87.50	-	-				
備	考									

事務事業名	こども未来プロジェクト推進事業		事業期間	2008 ~	年度	係内番号	09
担当部署	こども部	こども課	こども係			連絡先	613

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分)	メンバー以外の子どもの参加が非常に少ない結果となった。そのため、アンケートの回収率も低くなり、全体としての成果指標の目標未達となった。	こども会議の参加者数は実際に活動に参加するメンバーの人数が少なかった(昨年度の半分以下)ため、減少した。アンケート結果については、これまでのPRや活動を見て、自主的に会議に参加した中高生が一定数いたことにより、昨年より割合が増加したと考える。			
価値	成果	こどもまつりや縄文フェスティバルへの参加、こども会議の運営、古本カフェで挙げた収益で本を寄付するなど、メンバーが考え、実践するという一定の効果が出ている。	こどもまつり出展やこども会議の運営実践するという一定の効果が出ている。また、新規メンバーの勧誘活動には多くのメンバーが参加した。メンバーが「まちづくりの必要性」を実感し、まちづくりに参画する仲間を増やそうとする意識の高まりがみられる。			
	課題	メンバー以外の子どもの参加が非常に少ない結果となった。そのため、アンケートの回収率も低くなり、全体としての成果指標の目標未達となった。	活動に参加する意欲のある中高生のメンバーが年々減少する傾向にある。			
改革	翌々年度方向性	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	内容及び策	メンバーが各中学校に勧誘目的で訪問しているが、これは毎年、こども会議後に実施している。市内の中学生及び高校生の参加者を多くするために、勧誘活動を前倒してこども会議前に実施することで、こども会議のPRになり、参加者が増えたと考えられる。コストはほとんど増えない見込みである。	新メンバーの募集を推薦に頼らざるを得ない状況だったが、年度中に実施した勧誘活動の結果、多くのメンバーを確保することができた。活動に興味を持ってもらいメンバーの参加率を上げるため、今後はSNSやリモート会議などICTを積極的に利用していく。成果及びコストについては現メンバーがこども会議中心に活動しているため現状維持とするが、総合計画中の中間目標及び最終目標500人は、現状から考えると現実的な数字ではないため、目標指標の再設定若しくは変更が必要と考える。			

作成担当者	小坂秀輔	小坂 秀輔			
最終評価責任者	五味健志	五味 留美子			
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日			